

## 平成22年4月期 第2四半期決算短信(非連結)

平成21年12月11日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社メガネスーパー

コード番号 3318 URL <http://www.meganesuper.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 足利 恵吾

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員財務経理部長 (氏名) 齋藤 正和

TEL 0465-24-3611

四半期報告書提出予定日 平成21年12月14日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成22年4月期第2四半期の業績(平成21年5月1日～平成21年10月31日)

#### (1) 経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年4月期第2四半期	13,474	△14.0	248	—	163	—	47	—
21年4月期第2四半期	15,667	△4.5	△347	—	△398	—	△2,849	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年4月期第2四半期	3.50	—
21年4月期第2四半期	△208.16	—

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年4月期第2四半期	25,376	5,471	21.6	399.75
21年4月期	26,476	5,424	20.5	396.28

(参考) 自己資本 22年4月期第2四半期 5,471百万円 21年4月期 5,424百万円

### 2. 配当の状況

	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年4月期	—	—	—	—	—
22年4月期	—	0.00	—	—	—
22年4月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

### 3. 平成22年4月期の業績予想(平成21年5月1日～平成22年4月30日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	26,570	△10.0	440	—	260	—	△90	—	△6.59

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 有

#### 4. その他

(1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

〔(注)詳細は、5ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。〕

(2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更)に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 無
- ② ①以外の変更 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	22年4月期第2四半期	13,790,880株	21年4月期	13,790,880株
② 期末自己株式数	22年4月期第2四半期	102,799株	21年4月期	102,739株
③ 期中平均株式数(四半期累計期間)	22年4月期第2四半期	13,688,098株	21年4月期第2四半期	13,688,307株

#### ※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## 【定性的情報・財務諸表等】

### 1. 経営成績に関する定性的情報

当第2四半期累計期間における我が国の経済は、昨年秋以降の世界同時不況の影響から企業業績・雇用情勢等極めて厳しい状態が続く中、一部では政府の景気刺激策などにより景気持ち直しの兆しが見られたものの景気は全般的に厳しい状況で推移しました。また、雇用・所得環境の悪化を背景とした将来に対する不透明感を拭いきれず生活防衛意識は高まるとともにデフレ傾向は顕著となり、個人消費は依然として低調に推移しております。

眼鏡等小売業界におきましても、価格表示が均一な低価格専門店（ワンプライスショップ）の伸張や競合企業間の低価格競争の影響で眼鏡等小売市場の縮小が進み、一段と厳しい商況が続いております。

このような経済環境及び経営環境のもと当社は、「良いものをより安く」という企業コンセプトの原点に回帰し、「メガネスーパー」、「眼鏡専科」、「ハッチ」それぞれのブランドの再構築を図り、当社の眼鏡販売の基本コンセプトである提案・コンサルティング販売等に注力するとともに売上向上実現のため、全社員一丸となって活発な営業活動に取り組んでまいりました。

当第2四半期累計期間の販売施策としましては、Web販促の強化等、折り込みチラシではカバーできない客層に向けて販促活動を行いました。また、セールにおきましては、「ジャストプライス4,000円、8,000円、10,000円セット」、「超薄型レンズも選べる15,800円セット」、「善意のメガネ下取りセール」を当第1四半期会計期間に引き続き実施し、地域限定の「在庫一掃売り尽くしセール」、「お買得アウトレットコーナー」の新設や「一流ブランドレンズ全品さらに50%OFF」等、当社の強みを最大限に活かした各種セールを展開しました。

商品施策につきましては、フレーム、レンズ、コンタクトレンズ及び補聴器の「敬老の日特集超お買得商品」を打ち出し、販売強化に努めました。

しかしながら、仕入れコストを抑制し、ナショナルブランド品や高機能・高品質のプライベートブランド品を充実させ、前述の各種セールを実施した結果、既存店の購買客数は伸張したものの低価格競争を意識した販売施策や台風等の天候の影響で目論んだ売上増及び売上総利益率を改善するまでには至りませんでした。

当第2四半期累計期間における店舗の出退店につきましては、3店舗を出店し、4店舗を閉鎖しました。

経費面につきましては、新規出店の抑制、全社的な経費の節減等により前第2四半期累計期間と比べ減少しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は13,474百万円、営業利益は248百万円、経常利益は163百万円、四半期純利益47百万円となりました。

## 2. 財政状態に関する定性的情報

### (資産、負債及び純資産の状況)

流動資産は、前事業年度末に比べて304百万円増加し、7,258百万円となりました。これは、商品が608百万円減少しましたが、現金及び預金が979百万円増加したこと等によるものであります。

固定資産は、前事業年度末に比べて1,390百万円減少し、18,061百万円となりました。これは、有形固定資産が435百万円減少したこと、並びに、敷金及び保証金が1,071百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、総資産は、前事業年度末に比べて1,100百万円減少し、25,376百万円となりました。

流動負債は、前事業年度末に比べて186百万円減少し、9,594百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金が631百万円増加しましたが、1年内償還予定の社債が415百万円減少したこと、並びに、短期借入金が120百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は、前事業年度末に比べて962百万円減少し、10,309百万円となりました。これは、社債が845百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、負債は、前事業年度末に比べて1,148百万円減少し、19,904百万円となりました。

純資産は、前事業年度末に比べて47百万円増加し、5,471百万円となりました。これは、四半期純利益47百万円の計上等によるものであります。

### (キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前事業年度末に比べて979百万円増加し、当第2四半期会計期間末には、2,289百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、1,305百万円(前年同四半期累計期間は1,019百万円の使用)となりました。これは、たな卸資産の減少、仕入債務の増加等によるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は、1,048百万円(前年同四半期累計期間は483百万円の使用)となりました。これは、敷金及び保証金の回収による収入等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は、1,373百万円(前年同四半期累計期間は910百万円の取得)となりました。これは、長期借入れによる収入が増加しましたが、社債の償還による支出及び長期借入金の返済による支出等によるものであります。

### 3. 業績予想に関する定性的情報

平成22年4月期の通期業績予想につきましては、引き続き眼鏡等小売各社の競争激化、価格表示が均一な低価格専門業態の台頭から、一式販売単価の下落が続いており、急激に眼鏡等小売市場が縮小しており、眼鏡等小売市場を取り巻く経営環境は非常に厳しい状況となっております。

当社におきましては、昨今の経済環境を鑑み、顧客の動向や購買心理を踏まえた新販売戦略を打ち出し、売上高及び利益の確保に注力してまいります。

なお、通期業績予想は、本日発表の「平成22年4月期第2四半期累計期間業績予想との差異及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

### 4. その他

#### (1) 簡便な会計処理及び四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、事業年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

#### (2) 四半期財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

該当事項はありません。















